

大川に5万個の「いのり星」を放流 平成OSAKA天の川伝説2011



7月7日、大阪の都心に1日限りの天の川を出現させるイベント「平成OSAKA天の川伝説2011」が開催された。平成OSAKA天の川伝説運営委員会（関西経済同友会、大阪21世紀協会、大阪水上安全協会）の主催で2009年に社会実験として行って以来、今年で3回目。午後7時から9時にかけて約5万個のLED球「いのり星」を八軒家浜・大川から放流し、天満橋界隈に美しい光の天の川を浮かび上がらせた。この日は小雨の降る天候にもかかわらず、約2万2千人が集まり、幻想的な光景に見入っていた。また、八軒家浜「川の駅」では笹飾りコーナーが特設され、多くの来場者が思いの願いを込めた「天の川短冊」を付けていた。とくに今年は、東日本大震災の被災地への鎮魂や応援メッセージも



募り、この短冊は8月6日～8日の仙台七夕まつり会場で披露された。その後、放流された「いのり星」は、放流エリア内ですべて回収された。大阪・天満は、「天に星満る地」という地名の由来をもつ。また、7月7日は「川の日」にも定められている。そうした当地ならではの「平成OSAKA天の川伝説」には、大阪の夏の新たな風物詩として観光集客につなげるとともに、人々の心に愛と希望の光を灯したいという願いが込められている。大川にきらめく「いのり星」は、美しい水がある環境の大切さを語りかけているようでもあった。

5周年を迎え一挙300講座をラインナップ 300 DOORS インターナショナルワークショップフェスティバル2011



講師の西村もゆるさん

大阪21世紀協会提供のダンス講座で、KARAのヒット曲「ミスター」の振付けを体験した皆さん（7月21日・大阪市立芸術創造館）。

1講座500円で楽しめる体験講座の見本市「DOORS（ドアーズ）」が、去る7月16日から8月9日まで、昨年より100講座多い300講座で開催された。創造する楽しさを多くの人に知ってもらおうと、誰もが気軽に参加できる市民参加型プロジェクトとして38講座からスタートして今年で5年目。「DOORS」には、多くの人が自ら進んで文化創造の「扉」を開けてほしいという思いが込められている。

今年は、大阪ステーションシティにオープンした「東急ハンズ梅田店」とクリエイター支援施設「メビック扇町」が新たに会場に加わり、大阪市立芸術創造館（大阪市旭区）や大阪市中央公会堂（大阪市北区）などと合わせ6か所で開催された。今年は、アート、音楽、ダンス、演劇、伝統芸能、語学、料理などのほか、大阪のまちを歩く「野外講座」など新ジャンルの講座も登場。「仕事に関連した見識を深めたい」と環境や鉄道関係の講座を受ける男性や、「興味があるものを片っ端から体験してみたい」と、ダンスや囲碁など19講座を受講する女性など、それぞれが「暑い夏」を楽しんでいた。

主催はIWF実行委員会（大阪市、LLPアートサポート、大阪21世紀協会）。当協会は、このイベントを通してコーディネーターとして活躍できる人材の発掘・育成をめざしている。



政光順二さんの指導による「ミニミニ碁盤で今日から遊ぼう（7月21日・大阪市立芸術創造館）」

西の丸庭園から大阪の芸術文化を発信 大阪城サマーフェスティバル2011



毎年恒例の「大阪城サマーフェスティバル」が、7月2日から9月4日にかけて開催された。大阪城周辺の各会場では、音楽や伝統芸能、大川クルーズなどが行なわれ多くの来場者でにぎわった。主催は大阪城サマーフェスティバル実行委員会（大阪府、大阪市、大阪商工会議所、NHK放送局、各企業、大阪21世紀協会〔事務局〕など24団体）。今年も8月27日～9月4日を「大阪城西の丸ステージウィーク」と銘打ち、ライトアップされた大阪城をバックに特設ステージで演劇や朗読劇などを開催。西の丸庭園の魅力をアピールするとともに、大阪の芸術文化の魅力を内外にPRした。大阪21世紀協会では、平成23年度事業として、同庭園の特設ステージの共同利用をサマーフェスティバルのコア事業として育てるよう取り組んでいる。

「西の丸庭園ステージウィーク」でのイベント

幻想的な光のイベント 大阪城 城灯りの景

今年で11回目となる「城灯りの景」。8月28日（27日は雨天により中止）、約2万個のろうそく行灯が、大阪城本丸広場や西の丸庭園など大阪城一帯で幻想的な空間を浮かび上がらせた。行灯は1個100円で参加でき、思いの願いやメッセージが込められた。今年度は参加費の一部が東日本大震災義援金として日本赤十字社を通して寄付された。また、西の丸庭園特設ステージでは、大阪芸術大学の学生による管楽器演奏や創作能などが披露された。



大阪城天守閣復興80周年記念 浪華の夢～城を築くぞ！オレたちの～

天守閣炎上にあった大坂夏の陣（1615年）と大阪市民による天守閣復興（1931年）の人間ドラマが、ライトアップされた大阪城天守閣を背景に、芝居、ダンス、歌をまじえて繰り広げられた。歴史案内人はラジオパーソナリティーの浜村淳さん。8月30日に実施された。



迫真の語りと和楽器の饗宴 朗読劇 一期一会 マクベス

俳優大沢たかおの大胆で自由奔放な朗読と、津軽三味線の吉田良一郎・健一兄弟によるコラボレーション。さらに尺八、琴、和太鼓による純邦楽ユニット「WASABI」と津軽三味線集団が加わり、大阪城をバックに迫力ある饗宴となった。「マクベス」は、権力に溺れ滅んでゆく男を描いたシェークスピアの白眉。9月4日に実施された。